

連載

社会教育施設について考える(WG 報告)

～第2回：西日本データ・JAAA 年会参加報告編～

福澄孝博(北大院・工/生涯学習施設支援 WG 代表)、生涯学習施設支援 WG

1. はじめに

「生涯学習施設支援ワーキンググループ(以下 WG)」の最終年度取り纏めの一環として本連載記事を開始した。1 回目の前号では WG の概要を紹介し、具体的活動報告の中からまずは東日本の施設データ分析結果を紹介した[1]。

今回は、引き続き西日本の施設のデータ、および、先日、福澄が参加した日本天文愛好者連絡会(以下、JAAA)年会で WG の活動を紹介します。天文アマチュアの方がこのような活動を「利用者の立場から」どのように感じるか、また、どのような協同が可能かを議論してきた様子を報告する。

西日本のデータからは、「東日本ほど廃止は多くない。ただ、大都市では目立つ」といった特徴が読み取れた。また、指定管理者制度は 1/5 強の現役施設で導入されている。ここで、作業をしてみると(特に休止についての情報など)やはり皆さんからの情報が大切であること、を指摘したい。

年会では、他団体と協力してデータを集めてはという助言や、基本的に廃止は仕方ないのではないかという意見が得られた。詳しくは本文(3 節)を参照されたい。

2. データ分析-西日本編-

前回の東日本の結果に引き続き、西日本の施設データについて報告する。

2.1 概要

調査は石坂と福澄により行われた。作業の基になったデータ・作業手順共に異なるため、後にも詳しく述べる通り、東日本の結果とは

表1 西日本の施設調査結果

各項目の標記の意味は、本文中を参照のこと。合計が 100%にならない府県は、現状を調べ切れず不明の施設が含まれる為である。

| 府県名 | 件数 | 廃止 | 休止 | 指定 | 直営 | 法人 | 民間 | リユース |
|-------|-----|------|------|------|------|------|------|------|
| 愛知 | 16 | 12.5 | 0.0 | 37.5 | 31.3 | 6.3 | 0.0 | 12.5 |
| 岐阜 | 13 | 7.7 | 0.0 | 23.1 | 53.9 | 7.7 | 0.0 | 0.0 |
| 三重 | 8 | 0.0 | 0.0 | 37.5 | 67.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 滋賀 | 7 | 0.0 | 0.0 | 28.6 | 14.3 | 0.0 | 28.6 | 14.3 |
| 福井 | 6 | 0.0 | 33.3 | 0.0 | 50.0 | 16.7 | 0.0 | 0.0 |
| 大阪 | 24 | 25.0 | 12.5 | 16.7 | 20.8 | 4.2 | 12.5 | 4.2* |
| 京都 | 14 | 7.1 | 0.0 | 21.4 | 50.0 | 0.0 | 14.3 | 0.0 |
| 奈良 | 3 | 33.3 | 0.0 | 33.3 | 33.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 和歌山 | 6 | 50.0 | 16.7 | 0.0 | 33.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 兵庫 | 18 | 11.1 | 0.0 | 22.2 | 55.6 | 5.6 | 5.6 | 0.0 |
| 鳥取 | 4 | 25.0 | 0.0 | 25.0 | 50.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 岡山 | 14 | 7.1 | 0.0 | 7.1 | 64.3 | 0.0 | 14.3 | 7.1 |
| 島根 | 8 | 12.5 | 0.0 | 25.0 | 50.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 広島 | 9 | 11.1 | 0.0 | 0.0 | 55.7 | 0.0 | 22.2 | 0.0 |
| 山口 | 8 | 0.0 | 12.5 | 12.5 | 75.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 香川 | 6 | 0.0 | 0.0 | 16.7 | 33.3 | 0.0 | 33.3 | 16.7 |
| 徳島 | 5 | 40.0 | 0.0 | 0.0 | 60.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 高知 | 6 | 33.3 | 0.0 | 33.3 | 16.7 | 0.0 | 16.7 | 0.0 |
| 愛媛 | 8 | 12.5 | 0.0 | 25.0 | 62.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 福岡 | 16 | 0.0 | 0.0 | 25.0 | 50.0 | 12.5 | 6.3 | 0.0 |
| 佐賀 | 3 | 0.0 | 0.0 | 33.3 | 66.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 長崎 | 7 | 14.2 | 0.0 | 14.3 | 57.1 | 0.0 | 0.0 | 14.3 |
| 熊本 | 10 | 10.0 | 0.0 | 0.0 | 70.0 | 10.0 | 10.0 | 0.0 |
| 大分 | 12 | 8.3 | 0.0 | 8.3 | 75.0 | 0.0 | 8.3 | 0.0 |
| 宮崎 | 6 | 33.3 | 0.0 | 16.7 | 50.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 鹿児島 | 17 | 11.8 | 5.9 | 0.0 | 82.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 沖縄 | 7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 71.3 | 0.0 | 0.0 | 28.6 |
| 西日本合計 | 261 | 12.3 | 3.1 | 16.9 | 48.3 | 6.5 | 6.9 | 3.4 |

*引き継がれた施設は、現在指定管理者制度となっている。

単純には比較できないことに注意が必要だ。なお、本調査結果データは、あくまで調査を終了した時点、2015年3月12日付のものを紹介している。例えば、2015年5月にリニューアルオープンした刈谷市中央児童館は休止のまま計数している。

2.2 結果および今後の（調査）課題

2.3項に紹介する調査手法の、4)で得られた分析結果を表1（表のカラム各項目の意味も上記4)で与えられている）に示す。東日本の生データの公開も遅れており恐縮だが、実際のエクセルデータは同じくWGのウェブサイト[2]にて今後公開する。

前回指摘した廃止施設の多さであるが、今回の西日本ではあまりそこまでの印象は受けない。しかし、大都市やいくつかの県では西日本でも高い率を示しており、地域性で廃止が少ないとは言い切れない。先に触れたように、厳密には前回と調査方法自体が異なるが、今回は公開天文台系のデータが加わったため、何か要因が無いか今後さらに検討したい。

廃止施設32件に対し休止8件・リニューアルをにらんだ廃（休）止が9件ある（内7件は再開（再出発）済・他の2件も、昨年5月2日・本年11月23日に開館：逆に調査時点では直営だったが、現在移設の為休館中が1件存在）。この休止の中には、正常な施設が工事の為に休止中の例、福澄の元職場であったため偶々知っていた例などが含まれ、休止が1件のみだった東日本編で指摘したように、相変わらず皆様からの情報が頼りであることに変わりはない（第1回掲載後、早速ご報告もいただいている。感謝いたします）。

指定管理者制度の導入は、存続している施設の内の1/5強である。不確かな情報ではあるが、指定管理者制度から直営に戻った案件も見られた（公式ではないサイト上での記事）。

先に宿題とした指定管理者制度の存続への影響と共に、このような動向も、残り1年でどこまでつかみきれぬか不明だがWGでの調査課題としたい。

ところで、今回の西日本の調査を前回の東日本のそれと比べて端的に表現すると、後者が施設の運営形態の変遷の『歴史』を調べたものであるのに対し、前者は「現在の運営形態の分布」という、言ってみれば『地理的視点』での調査だと言える。本WGには他にも優先すべき調査・作業・検討課題が山積である。例えば、これらデータ分析に関しては上に挙げた指定管理者制度に関することの方が重要であるし、他にも、各論の整理など先にやるべきことは多いだろう。ゆえに、先において余裕があれば、になるかと思うが、東西それぞれの補完的分析も加え、双方で明らかになった特徴・課題を全国レベルで比較し確認、明確にしたいと思う。

2.3 方法

具体的な作業は、以下にそって石坂がインターネットでの調査（3）までを担当し、福澄がその結果の集計・統計処理、および、若干の補足調査をした。

1) PAONavi[3]ご提供のデータを基に施設のリストを作成、2) あわせて、日本プラネタリウム協議会（JPA）発行のプラネタリウム白書（2005年）・プラネタリウムデータブック（2010年時点のデータ）の内容と比較、3) 各施設につき、インターネットでHPの確認調査、4) それぞれの府県ごとに以下に分けて集計。①過去に存在したが廃止された施設：移管も含め、リニューアルされたもの（後述）を除く（表中『廃止』：%表示、以下同）、②何らかの理由で休止中の施設（『休止』）、③指定管理者制度を導入している施設：調査後再び直営に戻ったものも含む（『指定』）、④自治体による直営の施設：国営も含む（『直

営』)、⑤財団法人をはじめ、各種法人による運営の施設(『法人』)、⑥民間経営の施設(『民間』)、⑦新施設への引き継ぎを前提に廃止された施設:代替施設計画中也含む(『リニュー』)。

作業の中で、石坂はこの手法の問題点・作業の難しさをいくつか指摘した。今後、同様の調査を行う方の参考の為、以下に略記する。

PAONavi のデータ:○生涯学習施設でないものが多数含まれる(福澄注:イベント「開催地」ベースでも載せているため)○リンクが古く切れているものが多数→名称まで変わっていると辿るのも不可○施設存続・天文設備が廃止、だと何があったのか不明○(当然ながら)データ作成時に既に廃止・休止の施設は含まれず(福澄注:2012年公開だが、基になったのは2009年時点の施設データ)。

JPA のデータ:○公開天文台施設未掲載○広い意味では生涯学習施設だが、プラネタリウムのある学校などもデータ対象○URI(ホームページ)未掲載○休館と廃止の判別が困難。

3. JAAA 年会参加-利用者側との議論-

本年度 JAAA 年会(天文愛好者ミーティング 2016 名寄大会)で「皆さんは社会教育施設の廃止や休止をどう考えるか?」と題し福澄が代表して発表を行ったので報告する。

3.1 年会への参加の背景

WG の活動には一般の方からお寄せいただく情報も要となるが、本調査研究の WG 解散後の展開をにらんでも、一般の方が担う役割の比重は高い。そこで大会で WG の概要を紹介し、協力(特に意欲ある方にはメンバーとしての参加まで)を呼びかけようと計画した。しかし、その後 WG 内でミーティングを重ねる中で、その1つ前の段階、まずは「市民の方がた」が「利用者からの視線」では施設の存続・在り方についてどう考えるかを調査し

てみることにした。

3.2 発表内容

WG の概要として、ちょうど8月の第30回天文教育研究会で発表した内容[4]に基づき、その設立理念からこれまでにやったこと・これから取り組みたいことの紹介、結果の公開・保存を中心に解散後まで見据えたこれからの運営、などを話した。その上で「このような活動をどのように捉えるか?我われとどのようなコラボができそうか?」と問いかけた。割り当て時間は短く、十分な議論ができなかったのは残念だが、会場を見渡したところ興味を持って聞いていただけている感触をもった。

3.3 年会参加者との議論

そんな中、何人かの方とはその後の休憩時間や後日の電子メールのやり取りの中でご助言をいただき議論出来たので紹介する。

(1) 会場でのやり取り

①プラネタリウムメーカーなど、施設の変遷データを持っている団体は他にもある。そういうところと協力するのも手早くデータを集める手ではないか。②プラネタリウムの栄枯盛衰とその原因についてのデータ作りは興味深く一部作ったが現状きわめて不完全。やる気が起こったら続きをやりたい。

(2) メールでのやり取り

③あったほうが良いが、なくなっても止むを得ない。時代だから、仕方ないのでないか。④個別判断で集約して残す。詳しいことはわからないがたくさんあった方がないよりは良い。しかし、来館者減少・維持管理の費用との比較を考えれば、なくすのが止むを得ない施設もある。したがって、個別に判断して、集約するのが良いと思う。⑤施設ごとに状況

と事情は異なる。さらに発展させるものは発展し、廃止すべきところは廃止する。各市町村も少子化、高齢化、過疎化がほとんど進み、設立した当初と状態は大きく変化している。結局は維持費と客の質と数の問題になってしまうと思う。例えば維持するお金もなく、あまり知識のない説明員と古くなった展示施設で運営するのなら、廃止の方が良い。一方でたくさんの人が訪れる所には、最新の施設を整え子どもの夢を育てられるようにしてあげられればと思う。

(3) まとめと課題

或る程度予想してはいたが、ありのままの変化をありのままに受け入れる、という市民が多いようだ（私はそれが悪い、という意味で言っているのではない）。第1回でも触れたが、住民が納得して廃止を選ぶのなら、それは尊重されるべきだろう。しかし、それはあくまでも「住民が深く考えた上で」のことである。中には社会教育施設の重要性を知らずに判断する方もあるかもしれない。

「(当事者が) 選ぶなら良い」、と言いながらも、その「選ぶ判断基準」を我われが正しく与え整備していかないといけない。これからも啓発活動は重要であり、その意味でも活動を報せる運動にも力を入れたい。

そうはいっても、調査研究を一緒に行ったりメンバーとして登録したり、までは正直に言って難しいが、少なくとも情報に気付いた時に報告していただくことはかないそうな雰囲気であった。この、今後の継続的情報基盤の整備の意味でも、天文教育研究会内にとどまらず、広くあちこちでWGの発表・報告を行い、活動を広く知ってもらうことが大切と改めて認識出来た。

4. おわりに

連載記事第1回に続き、これまでの調査結

果としての「西日本の施設の運営形態の分析」と最近福澄が事例発表したJAAA年会のレポートを紹介した。次回は『各論』の中からサンシャインプラネタリウムの支援活動についての報告を予定している。

今回の記事執筆にあたっては、会員メーリングリストで原稿を紹介し、寄せられたご意見・助言を基に改訂を行うことができた。改めて謝意を表すると共に、次回以降も会員の皆様とも協力した形で本連載を続けたい。

最後になるが、そして前回との繰り返しになるが、本調査研究活動においてキモとなるのは『情報の(素早い)把握』である。そして、そのために肝要なのが『地元の方からの情報提供』である。もちろん、地元ではなくとも、構わない。「(他所からしなくても)誰かが報告しているだろう」「こんな不確かな情報では却って迷惑では?」ではなくて、何らかの情報を得たら即報告、を引き続き皆様にご協力お願いしたい。

文 献

- [1] 福澄孝博ら(2016)「社会教育施設について考える(WG報告)」, 天文教育, 第28巻第5号(2016年9月号), 14.
- [2] <http://tenkyo.net/wp/activity/wg/>
- [3] <http://www.paonavi.com>
- [4] 福澄孝博(2016)「生涯学習施設支援WG纏めの年度突入! ~現状報告とこれから~」, 第30回天文教育研究会集録, in press.